

令和8年度全国学力・学習状況調査結果（湖西市）

湖西市教育委員会

7月に、文部科学省は4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果を公表しました。調査結果について、全国の正答率と併せて、湖西市の子どもたちの様子をお知らせします。

1 調査の概要

- ◆目的 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◆実施日 令和8年4月23日
- ◆実施対象 小学6年生
- ◆調査内容
 - ・教科調査（国語、算数）
 - ・生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

2 結果の概要（全国との比較）

教科	
国語	△
算数	○

◎＝全国平均を上回る（＋1.1以上）
 ○＝全国平均とほぼ同じ（±1.0以内）
 △＝全国平均を下回る（－1.1以下）

質問紙	
国語への関心等	△
算数への関心等	○
規則正しい生活	○
社会性に関すること	△
自分に関すること	◎
学習に関すること	△

◎＝全国平均を上回る（＋0.5以上）
 ○＝全国平均とほぼ同じ（±0.4以内）
 △＝全国平均を下回る（－0.5以下）

教科に関すること

○よいところ

教科	問題番号	内容・領域	問題の概要	出題の趣旨	正答率（市）	全国との比較
国語	2一	書くこと	・花山さんの文章の工夫を説明したものとして適切なものを選択する。	・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる。	59.9	◎
	2三ア	言語	・【花山さんの文章の一部】の下線部アを、漢字を使って書き直す。	・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。	82.9	◎
	3一	言語	・【文章】の特徴として適切なものを選択する。	・話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる。	76.0	○

教科	問題番号	内容・領域	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (市)	全国との比較
算 数	1(1)	図形	・一辺が8cmの立方体の体積を求める式を書く。	・立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる。	72.0	○
	3(1)	数と計算	・1.5.9の3枚のカードを当てはめてつくることのできる最も大きい数を書く。	・小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる。	93.8	○
	3(4)	数と計算	・ $5/3$ を表す目盛りが示された数値線上で、1を表す目盛りを選ぶ。	・単位分数の個数に着目し、数値線上の1を表す目盛りを捉えることができるかどうかをみる。	68.3	○

△もう少しがんばりたいところ

教科	問題番号	内容・領域	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (市)	全国との比較
国 語	2三 (イ)	言語	・【花山さんの文章の一部】の下線部イを、漢字を使って書き直す(ふしぎ)。	・学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができるかどうかをみる。	45.7	△
	2四	書くこと	・【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く。	・引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。	33.4	○
	3三 (1)	読むこと	・【話し合い様子の一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する。	・目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。	48.6	△
算 数	2(3)	変化と関係	・ペンギンがいる二つの広場の混み具合を求める式の意味について、正しいものを選ぶ。	・単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかどうかをみる。	39.9	△
	2(4)	数と計算 変化と関係	・赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図を二つ選ぶ。	・基準値、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる。	29.3	△
	4(3)	データの活用	・二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く。	・二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる。	13.9	△

◆成果と課題

全国の正答率と湖西市の結果とを対比させると、算数の正答率は同水準、国語の正答率はやや下回るという結果でした。また、教科への関心度について、算数は全国平均を上回り、国語への関心は全国平均を下回る結果となりました。

- ・国語：「書くこと」の内容で、全国平均を上回りました。自分の考えが相手に伝わるように文章の構成や展開の仕方を工夫する力が身につけていることが分かります。しかし、その他の「思考力、判断力、表現力等」の内容、特に「読むこと」の領域で、全国平均を下回る問題がいくつか見られました。
- ・算数：「数と計算」「図形」の2領域の問題のいくつかで全国平均を上回り、その他3領域（「測定」、「変化と関係」、「データの活用」）は、全国平均を下回りました。特に、「変化と関係」「データの活用」の領域は、全国と同様に正答率が低いという課題が見られました。

◆今後の取り組み 湖西市では、各学校で6月までに「振り返り」を実施しました。

- 誤答の多かった問題について解説すると共に、何について問われているのかを理解するために声に出して読んだり、線を引いたりして確認した。特に文章で答える場面については、条件を全部満たしていないことについて一つ一つ確認し、振り返りを行った。
- 正答率が低い問題を中心に、教室配置のテレビモニターで問題にある説明文や図を示し、ヒントとなる部分を説明した。
- 計算の順序を確認したりしながら考えさせたり解説したりした。児童からは「そういうことか」「〇〇のやり方を忘れていた」などという発言が大いにあり、ケアレスミスや定着不足などの自覚が見られた。

★国語★

- ・文章を書く際に、課題として「文字」や「言葉」の指定を入れたり、提示した資料からわかること、考えたことを書かせたりする等、条件付けの文章とすることで、書く力のさらなる向上を目指す。
- ・言語活動を通して何を身に付けさせたいかを意識した授業づくりを行っていく。その中で、表現して終わりではなく、推敲したり対話しながら見直したりする時間を確保することで、自己調整力を育む取り組みとする。
- ・事実・意見・感想・理由・事例などそれぞれの文の役割について意識させることで、作品の主題や作者の意図等に気づくことのできる「読む力」を育む。

★算数★

- ・言葉の式を丁寧に理解していくことで、ただの数字として考えるのではなく、何がいくつなのかが問題文から読み取れるようにする。
- ・日々の授業の中で、日常生活と置き換えたりつなげたりして考えられるよう、発問の工夫をする。
- ・図や表、具体的な数字や算数用語を使って自分の考えを説明することを低学年から積み上げる。言語化するときには文字だけでなく直接伝え合うことも大切に、相手に伝わる説明ができるようにする。

今回の調査結果をもとに、それぞれの学校における実態を再度把握し、さらに授業改善を進めていきます。

湖西市全体としては、その中で、特にタブレットを用いたICT教育の充実を図りたいと考えています。タブレットを用いた協働学習には、「自分の考えを視覚化して共有できる点」「他者の意見をリアルタイムで比較できる点」そして「全員が主役となって議論に参加できる点」に大きなメリットがあります。それらはより高次の問題でも必要とされる「論理的思考力」や「多角的なアプローチ力」にもつながっていきます。思考や対話を促す声かけや学びの場をデザインする工夫を心がけ、より効果的に国語、算数の力を育む取り組みを目指していきます。

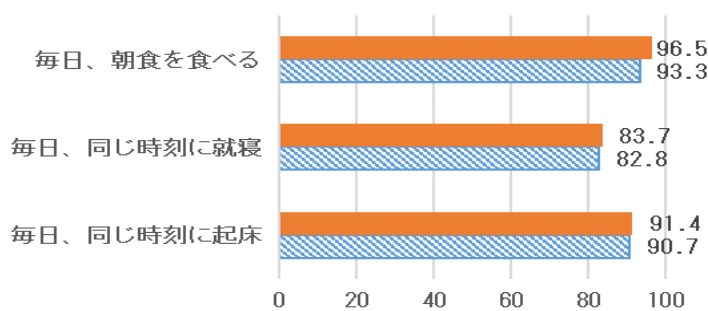
質問紙には、合計 73 項目の質問がありました。湖西市の子どもたちのよいところ、がんばりたいところを紹介します。

■湖西市

■全国

湖西市教育委員会

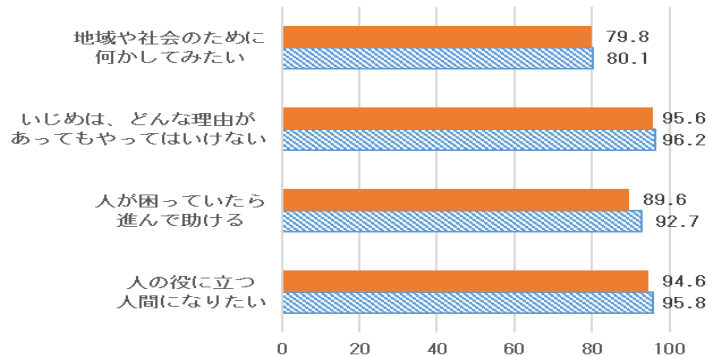
生活習慣…○



生活習慣に関する項目全てで、全国平均を上回っています。毎日、朝食を摂ると、脳の働きも活発になって集中力が高まります。また、良質な睡眠は、体の成長だけでなく、記憶の整理や学習の定着も促します。

TVやゲーム、インターネット等は時間を含む使用ルールを決めて、今後も規則正しい生活を送っていけるよう、声掛けや見守りをお願いします。

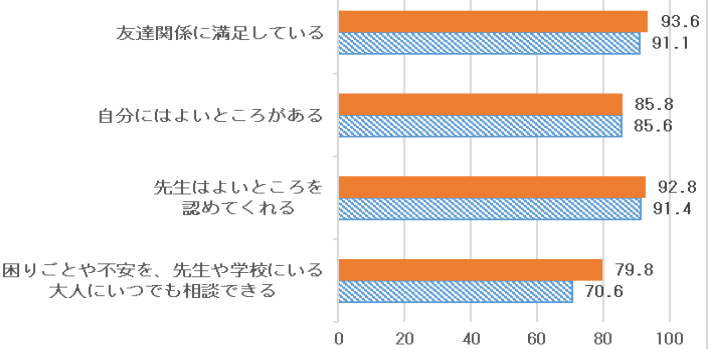
向社会性…△



向社会性に関する項目全てで、全国平均を下回っています。学校授業において、静岡県版 SEL（ソーシャル・エモーショナル・ラーニング）を計画的・継続的に取り組むことで、他者と関わることのよさに気付けるよう取り組みます。

ご家庭でも、地域の行事や市が主催するイベント等に足を運び、地域での交流を深めてみてはいかがでしょうか。

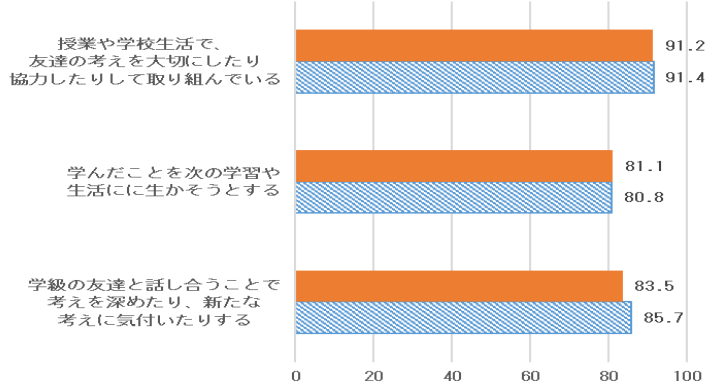
自己有用感・心理的安全性等…◎



学校は、いろいろな人とのかかわりについて学ぶ場です。困りごとや不安がある時は「一人で悩むのではなく、まわりの話せる人に相談しましょう」というメッセージを学校からも伝えていきます。

そうした生活の中で、子どもたちが安心して過ごせるよう、また自分のよさに気付けるよう、学校とご家庭で、引き続き連携を図っていきましょう。

主体的・対話的で深い学び…△



「学級の友達と話し合うことで考えを深めたり、新たな考えに気付いたりする」項目で全国平均を下回っています。その他項目の結果から、取り組むことの意味の理解や取り組もうとする意欲は伺えますが、学びの中でどう深化・発展させていくかが課題であるということが分かりました。

この結果を、学校における今後の授業改善につなげていきます。

※向社会性とは、「他者や社会全体に利益や恩恵をもたらすような、思いやりや協力に基づく性質」のことを指します。

全国学力・学習状況調査 質問紙結果の振り返りと ご家庭でのサポートのポイント

今回のアンケートから、湖西市には「自分にはよいところがある」という自己有用感の高い児童が多くいることが分かります。これは今後の成長において非常に素晴らしい原動力です。この強みを生かしながら、「向社会性」と「学習習慣」を少しずつ伸ばしていってもらえたらと思います。

1. 向社会性（思いやり・協力等）を育む取り組み

「感謝の可視化」で、人の役に立つ喜びを「他者視点」へ広げる。

- **家庭での明確な役割づくり**：配膳やゴミ出しなど「毎日の担当」を決めます。終わった後は単に「ありがとう」だけでなく、「手伝ってくれたから夕飯の準備がすごく助かったよ」と、自分の行動が家族にどう役立ったかの感情を添えて伝えます。
- **相手の気持ちを想像する問いかけ**：トラブルや意見の食い違いがあった時は、頭ごなしに叱るのではなく「〇〇だったらどう思うかな？」「相手はどうして欲しかったのかな？」と立ち止まって考えさせることで、「他者」の視点を育みます。

2. 自主的な学習習慣をつけるアプローチ

「自分で決めた！」という自己決定感でやる気を引き出す。

- **「自己選択」の問いかけ**：「勉強しなさい」ではなく、「何時からスタートする？」「漢字と計算、どちらからやる？」と選択肢を示し、本人に決めさせます。自分で決めた体験が継続につながります。
- **スモールステップ（15分からのスタート）**：最初から長時間を目標にせず、まずは「15分だけ集中する」「ドリル1ページ」など確実にできる目標から始め、達成できたプロセスをしっかり認めます。
- **「教え合い」の活用**：「ここはどうやるの？お母さんに教えて！」と解説してもらう機会を作ります。教えることで自信と理解が深まります。

学校でも、グループ学習での役割づくりや教え合いの場面を通して、「周りとの協力しながら達成する喜び」を感じられるよう指導してまいります。学校とご家庭とで連携をしながらよりよい生き方のできる児童生徒に育てていけたらと考えております。

調査問題や正答例を詳しく見たい方はこちらからどうぞ

